

訪問リハビリ事例紹介 ~言語リハビリ~

新潟南病院 訪問リハビリでの一例



心原性脳塞栓症を発症し、後遺症として失語症がのこる
入院中に言語リハビリを受け、ごく簡単な日常会話は可能となる。家族より退院後もリハビリ継続の希望あり、訪問言語リハビリ介入の運びとなる。

話す側面

- 言葉が出てこない
- 言いたい言葉と違うことを言ってしまう



• 相手の話していることが理解できない

• 文字が思い出せない

書く側面

聞く側面

目標

家族との会話を楽しみたい
遠くに住む友人へ年賀状を出したい



訪問リハビリでの取り組み

話す側面

- 「会話補助ノート」を作成し、ご本人やご家族に対し活用方法を指導
- 自身の気持ちを様々な手段で相手に伝えられるよう、ジェスチャーや描画など音声言語以外のコミュニケーション方法を指導

聞く側面

- ご家族に対するコミュニケーション方法の指導
- 単語や文章の聞き取り訓練

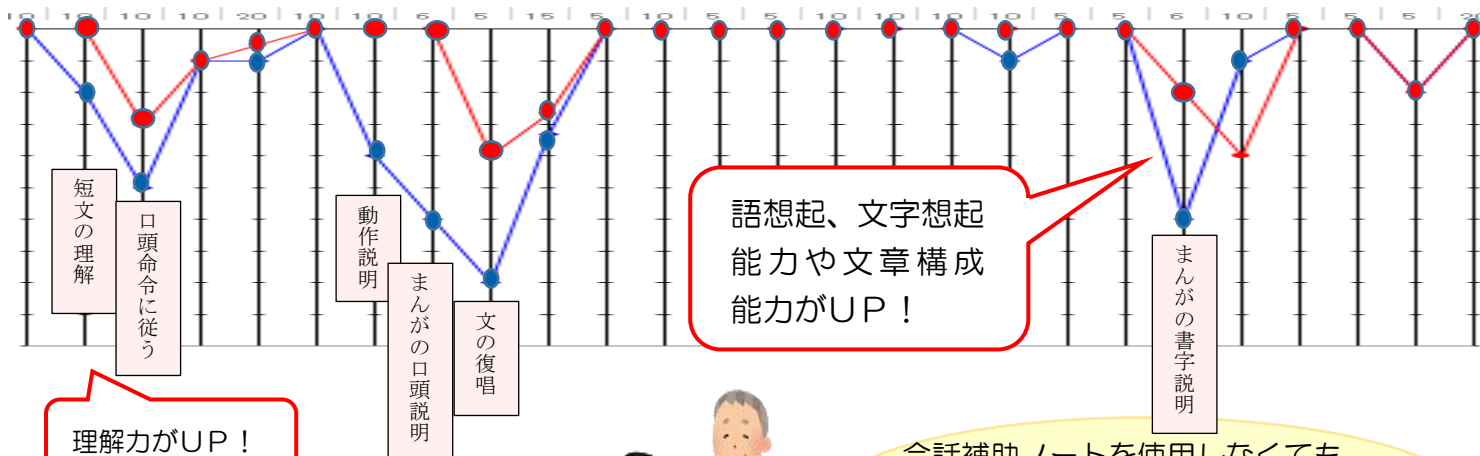
書く側面

- 日記や年賀状の下書き作成等の文章作成練習

訪問リハ介入後

● 評価結果
標準失語症検査

— 訪問リハビリ介入時（発症3ヶ月）
— 再評価時（発症3年後）



理解力がUP!

長文の手紙も正しい文法で書くことができ、添削の必要がなくなった



会話補助ノートを使用しなくても言い回しを変えたりジェスチャーを使い相手に伝えられるようになった

ご家族がゆっくりと簡潔に話しかけたり難しい内容は文字に書いて提示してもらうことで理解できるようになった



新潟南病院 訪問リハビリテーション

*お気軽にご相談下さい。

〒950-8601 新潟市中央区鳥屋野 2007 番地 6

電話：025-284-2511 FAX：025-284-2080



facebook

SNS でも情報配信を行っています!

Instagram



MINAMI-HOUMON-REHA